

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年5月26日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.118】

革マル派が国政への浸透を企図している懸念はないのか？！

前号で紹介した「革マル派によるJR総連及びJR東労組への浸透に関する質問主意書」への鳩山内閣の答弁書について、5月11日の産経新聞夕刊は次の通り報じた。

「JR総連内に革マル派浸透」

政府は11日の閣議で、多数の刑事事件を起こしている左翼過激派、日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派(革マル派)の活動について「全日本鉄道労働組合総連合会(JR総連)および東日本旅客鉄道労働組合(JR東労組)内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している」とする答弁書を決定した。自民党の佐藤勉衆院議員の質問主意書に答えた。

なお、産経新聞が、当日の午前中に配信したインターネット記事(産経ニュース)では、見出しが若干異なるほか、上記の新聞記事に加えて以下の記載がある。

JR総連、JR東労組には革マルが相当浸透と政府答弁書 民主党はJR総連候補を公認

政府は11日の閣議で、-(中略、上記内容と同じ)- 認識している」とする答弁書を決定した。自民党の佐藤勉衆院議員の質問主意書に答えた。 民主党は今年3月、夏の参院選の比例代表候補として、JR総連の組織内候補でJR総連政策調査部長、JR東労組中央本部政策調査部長などを歴任した田城(たしろ)郁(かおる)氏を公認している。

質問主意書6項には「革マル派組織が将来的に国政の場への浸透を企図する動きや懸念はあるのか、見解を明らかにされたい」とあり、この質問に対応する答弁は「今後も、革マル派は、組織拡大に重点を置き、党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っていくものと見られる」の部分と考えられる。つまり「各界各層への浸透」の中に「国政の場への浸透」も含まれていると解釈できるだろう。

産経新聞のネット記事では、民主党がJR総連に革マル派が相当浸透していることを認めた一方で、JR総連組織内候補の田城郁氏を公認したことを合わせて記載している。田城氏はJR総連・東労組の幹部役員だ。民主党政権の公式見解と、民主党が田城氏を参議院選挙の候補者として公認したという相矛盾する問題を、マスコミはじめ社会が問題視することは当然だろう。JR総連への革マル派の浸透と国政への浸透の企図や動きについては、わが国の重要な治安問題の視点からも、今後、確実に追及が進むものと想定される。今後の動向を注視し、本情報でもしっかりと検証していきたい。

警察は浦和電車区事件の動向にも注目！

なお、主意書の前文にあるように、2010年3月発行の警察庁広報誌「焦点」には「革マル派が相当浸透しているとみられるJR総連及びJR東労組は、組合員を大量動員し、JR東労組の組合員らによる組合脱退及び退職強要事件に対する支援行動に取り組みました。平成21年6月5日、一審有罪判決に対する被告人の控訴は棄却されましたが、これらの組合は、それ以降も『不当判決』などと訴える集会に取り組み、組織の引き締めを図りました」との記載がある。上告審の結論も近い浦和電車区事件をめぐるJR総連・東労組の動向に注目する警察の姿勢がよくわかる。それにしても、革マル派の記述の一部で扱われるのは、JR総連・東労組の一般組合員にとって、さぞかし迷惑千万なことだろう。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>